

令和元年度第7回三重県行財政改革推進本部本部員会議概要

- 1 開催日時：令和2年1月30日（木）9:20～9:35
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり（●議題提出部局説明）

議題1 RPA実証実験の報告について

●佐藤行財政改革推進課長（資料1に基づき説明）

- ・RPAの円滑な導入、効果的な活用に向けた実証実験と試行を進めているなか、時間外勤務時間の集計業務、旅費請求の審査業務の2業務で実施した結果、RPAによる自動化により、年間で2業務合計約600時間の削減が見込めることがわかった。
- ・一方で、業務担当者が実証実験に要した時間は、合計で約100時間となり、RPA導入には一定の時間を要することもわかった。
- ・さらに3業務について試行を進めているところだが、来年度の本格導入に向けて、各部局において積極的な検討をお願いしたい。

☆鈴木知事

導入による削減時間だけでなく、個々の業務がどう変わったかという点で捉えるのが重要である。

●佐藤行財政改革推進課長

RPAを導入した際の効果については、

- ①業務自体が減少し、かつ職員が関わる部分が減少
- ②業務自体は減少していないが、職員が関わる部分が減少等の状況も踏まえ、正確に伝えていきたい。

議題2 スマート改革検討チームの提言について（資料2に基づき説明）

●スマート改革検討チーム 中小企業・サービス産業振興課村田主任 （資料2に基づき説明）

- ・中間報告以降、14の課をモデル課として実行に移してきた。モデル課の取組を踏まえて、ブラッシュアップしていくことが重要と考えている。
- ・スマート改革の司令塔となる新組織の設置など、全庁的な推進体制の確立が必要である。
- ・取組を進めていくことで、成功体験を積み上げ、職員の意識を高めていく。
- ・提言を出して終わりではなく、改革を実行していくための体制づくりを部長といっしょに進めながら、改革を実行していきたい。

●紀平総務部長

行財政改革推進本部員会議として、スマート改革検討チームの熱い思いを、しっかり受け止めたい。

☆鈴木知事

・熱い思いと具体的な取組を述べてくれた、スマート改革検討チームに感謝したい。

・予算、組織など仕組みを変えなければいけないことは、できるものから速やかに取り組んでほしい。また、仕組みを変えずともできるものもたくさんある。

各部局において、報告書を最大限活用してしっかりと取り組んでほしい。

・テクノロジーを使用することに抵抗があったとしても、その先には県民の皆さんのためのアイデア・時間・行動が生まれてくる。ぜひチャレンジをしてほしい。

●紀平総務部長

知事からもコメントがあったが、すぐに始められることはたくさんある。各部局においても、できることから始めてほしい。